

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0160590071		
法人名	社会医療法人 恵和会		
事業所名	アメニティ西岡水源池 グループホーム 2階 空の虹		
所在地	札幌市豊平区西岡4条13丁目7番20号		
自己評価作成日	平成25年5月10日	評価結果市町村受理日	平成25年9月9日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の尊厳を大切に守り、「その人らしい生活」を送れるよう、職員が日々話し合いながら、ケアプランに基づいて一人一人に合ったケアを行っている。ご利用者の「できる力」を大切にしながら職員が見守りと声かけを行い、ご利用者が笑顔で毎日を過ごせるような雰囲気作りに努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0160590071-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=0160590071-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成25年7月30日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、法人および事業所の理念である、「地域との絆・自分らしく生きがいのある生活・馴染みのある環境作り」に基づき、ご利用者の生活の支援に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、運動会やゴミ拾い・花壇整備・防災訓練・救急救命訓練等の地域行事に参加している。また、グループホームの火災時における緊急通報システムの一員として、地域の方のご協力を得ている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での認知症についての勉強会には、会議メンバーばかりでなく、ご利用者のご家族にも参加して頂き、認知症高齢者の日常生活を通して、症状の進行程度に合わせた支援の方法を伝え、理解を深めて頂くように活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、高齢者の健康管理や医療・介護保険の改正、地域の医療連携システムについて等、毎回テーマを決めて勉強会を行っている。会議での内容において、メンバーからの質問や、出された意見は全体会議で報告し、その後の活動やサービス向上に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と、電話での問い合わせ・相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する外部研修に参加した職員からの伝達講習で、各職員への周知を図っている。身体拘束については、普段から職員間で話し合い、ケアに当たっている。フロア入り口にセンサーを取り付けているが、ご利用者が外出しような時はさりげなく声をかけ、見守りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加した職員からの伝達講習や、ニュースになった高齢者虐待例について、職員同士の話し合いを通じ、高齢者虐待防止法への理解をより深めるよう、取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・成年後見制度の講習に参加し、他の職員へ伝達講習を行い、職員全員がご利用者の権利を擁護する立場に立って、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定に拘わらず、書式や内容については、その都度細やかな説明を行い、疑問点等を確認し理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアの入り口に御意見箱を設置している。また、ご家族が来訪された際は、ご利用者の言葉や態度や表情など近況を報告して、ご家族の意見を聞き、ご利用者が中心となるサービスの提供を心掛けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り職員の意見や提案を聞いている。また年に2回の個人面談や毎月の全体会議でも職員の考えを聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々を信頼し、努力や実績なども把握出来ている。研修や資格取得を支援し、向上心を持って働けるように努め、職員が働きやすい環境作りをしている。面談で職員のストレスや悩み、異動の希望も聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールを立て、法人外での研修を多くの職員が受講できるように配慮している。研修報告・伝達講習は、全体会議で行い、各職員のスキルアップを図っている。事業所内での研修は毎月テーマを決めて各職員が担当し、全体会議で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での管理者会議、地域医療連携システム連絡会に出席し、同業者との交流・情報交換して、サービスの質の向上に取り組んでいる。特に看取りについては、同業者からの情報を得て、医療連携がスムーズに行えるよう取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用についての相談があった場合、ご本人に会って、心身の状態や、ご本人が困っている事・不安などを聞いている。ご家族からも情報を提供して頂き、ご本人が少しでも安心して話して頂けるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームに見学に来て頂き、ご家族が不安に思っている事、困っている事に耳を傾け、受け止めるように努めている。ご家族からの電話での問い合わせにおいても、相談しやすいような対応を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がどのような支援を希望しているか、他のサービス利用も含めてしっかりと話し合っている。入居後もご利用者やご家族の状況に応じて話し合い、ご利用者にとって一番良い方法で支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が得意な事や役割を活かして過ごせるように、またご利用者とスタッフが共に助け合っ、お互いに感謝の気持ちを言葉にしながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の生活の様子や思いをご家族に伝え、出来るだけご利用者の思いに応えられるように、ご家族が出来る範囲での支援をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居以前から親交のあった方が気軽にきて頂けるような雰囲気作りに努めている。また、古い友人からの電話も取り次いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性や性格を把握することで、トラブルなく過ごされている。一緒に洗濯物をたたんだり、お茶を飲みながら会話することで自然にお互いが支え合う関係が出来ている。孤立せずにお互いに思いやりを持って接して頂けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でもご利用者・家族の相談や来訪の希望があればいつでも対応できる体制が整っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない日常会話の中で、ご利用者の希望や意向の把握に努め、困難な場合には職員全員で話し合い、ご利用者の意向に沿えるよう、ご家族の協力もお願いし、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者のこれまでの生活歴や習慣等をお聞きし、基本情報シートへ記入し、朝・夕の申し送りで、職員全員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の一日の過ごし方や心身状態を記録し、職員全員が把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の希望はもとより、家族の要望・意向も反映できるよう職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で変化があれば個別記録に記入し、朝・夕の申し送りで情報を共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望や意向をお聞きし、ご利用者個々に合ったサービスを提供できるよう柔軟な支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ヘアカット・読み聞かせ・歌謡・舞踊等、様々なボランティアの活用、町内会行事への参加等、地域との馴染みの関係を構築する事で、日々の暮らしを楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科・皮膚科等の定期的な訪問診療時の対応や、通院医への受診報告書などにより、かかりつけ医との関係を築き本人・家族の意向に沿えるよう支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤でおり、ご利用者の状況に変化があれば、相談し対応出来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 できるように、病院関係者との情報交換や相談に努める	入院した際には、支援方法の情報を提供している。またご家族や医療機関から情報を得て、早期に退院出来るよう相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者・ご家族の意向を確認・重視し、かかりつけ医と話し合いの上、ご利用者を取り巻く全員で方針を共有している。看取りについてのマニュアルがあり、かかりつけ医と事業所職員がチームとして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時のマニュアルがあり、職員は定期的に勉強会等を通して確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、職員全員が避難方法を把握できるようにしている。災害時には緊急連絡の体制や、近隣住民の協力が得られる体制を取っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対する言葉使いや対応について、年1回の接遇研修を行っている。また、接遇係が標語ポスターを貼り、日々高齢者の尊厳を守る工夫をしている。個人情報の取り扱いについては、ホーム長の指導のもと十分に注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望・思いをいつも気に掛け、職員はご利用者が決定した意思を尊重しながら、ご家族にお伝えすることも支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調や気分に合わせて生活して頂けるように配慮している。臥床時間や外出をその方に合わせたり、体調により食事や入浴をずらしたり、一人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室やボランティアによる訪問理美容を利用されている。更衣に介助や見守りを要する方にも、好みの服を自分で選んで頂いている。エプロン・スカーフ・お化粧品なども自由にされている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・片付けはご利用者で行っている。食事の支度をされる時は下ごしらえのお手伝いをして頂いている。行事に合わせて提供する食事はご利用者の楽しみの一つになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い、毎日食事・水分の摂取量を記録し、個々に合ったご飯の量を毎食測って提供し、体重・排泄状況を把握している。咀嚼状態や嚥下状態に応じて、調理・食事の形態、配膳のタイミングなどに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じ、声かけ・見守り・介助を行っている。定期的な訪問歯科診療を受けアドバイス・指示のもとに口腔衛生に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の認知状態に合わせ、排泄チェック表を活用し時間を見計らってトイレ誘導したり、行動サインを察知してトイレ誘導することで、一人ひとりに合った排泄方法を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品・野菜ジュースなどを提供している。腹圧を高める運動・歩行運動等をケアプランに取り入れ、適度に水分を摂取できるよう、一度に沢山飲めないご利用者には、時間を置いて少しずつ摂取して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望や外出予定に合わせ、週に2回以上入浴出来るように考慮しながら、予定は前日に設定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣を崩さない程度に、その日の体調・気分や外出・入浴などを考慮している。休息をとって頂きながら、生活リズムを整えるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬剤情報は、介護記録に保管し常に目を通すことが出来る。薬剤の変更・臨時薬があった場合には、必ず申し送りにてスタッフが周知している。個々に合わせた服用を考えて、確実に服用していたできるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意な事・好きな事に力を発揮できるように、職員も一緒に楽しみながら活動して頂いている。お手伝いをして頂く際には、感謝の気持ちを伝え、役割の達成感・張り合いを感じて頂いている。レクリエーション・外出等気晴らしの支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿い、体調や天候に応じて散歩に出掛けている。普段行けないような場所へは、ご利用者の希望を確認し、ご家族に協力をお願いしたり、戸外の行事を企画して支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理出来る方にはご自分で管理して頂き、外出し買い物される際には支払いもご利用者に行って頂いている。小遣いをお預かりし、希望があった際にはご家族に確認し、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば電話を使用し、出来る方には自分でダイヤルして頂いている。スタッフや他者を気にせずお話出来るよう、子機を使用して居室で話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節を感じられるディスプレイを製作し、展示している。また、写真を廊下に掲載し、楽しんで頂いている。ご利用者にとって不快な刺激とならないように、音・光・温度に気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士でお話やゲーム等して過ごして頂いている。また、食堂・ホール・居間にソファを置き、一人ひとりが思い思いにすごして頂けるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居までにご利用者が使い慣れた家具を持ち込み、使用して頂いている。また、壁にご自分で作られた作品を飾られている方もいる。それぞれの好みにより、ラジオやテレビを置き、心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室に手摺が設置されている。浴室やトイレの入り口には、マークがついており、また、夜間帯はダウンライトでトイレの位置が分かりやすくなっている。出来るだけ自立した生活が出来るように努めている。		